

農業農村整備事業関連情報

明日の農業土木技術者の育成（その2）

～高校生を対象とした総合学習～

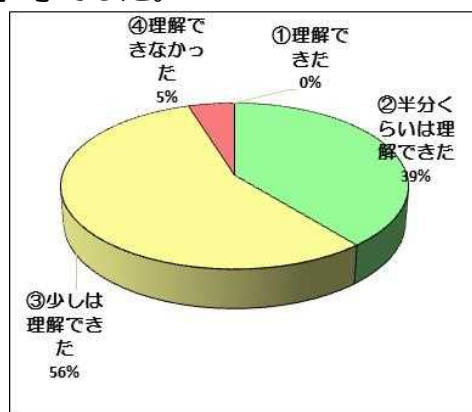
今年度は、県立熊本農業高等学校の2年生を対象とした実習を3回行いました。受講した生徒に行ったアンケート調査の結果を御紹介します。

○第1回目（8月開催）：ほ場整備の概要、暗渠排水の計画（演習）

- 理解度は、ほ場整備の概要で5割、暗渠排水の計画（演習）は4割でした。演習は、計算に必要な公式（マンニングの式）を授業でまだ習っていなかったこともあり、難しかったとの意見でした。
- 主な感想は、「ほ場整備をすることで、面積や形がばらばらな農地が均一になり、大型の農業機械を使用することができるようになって作業性がよくなることが分かった。」「農地を集積することで仕事の効率化が図れることが分かった。」「水田には洪水を防ぐ等の多面的機能があることが分かった。」「暗渠排水をすることで水はけがよくなり、水田を畑として使うことができることが分かった。」「暗渠排水を学校のグラウンドにもつけてほしい。」等でした。



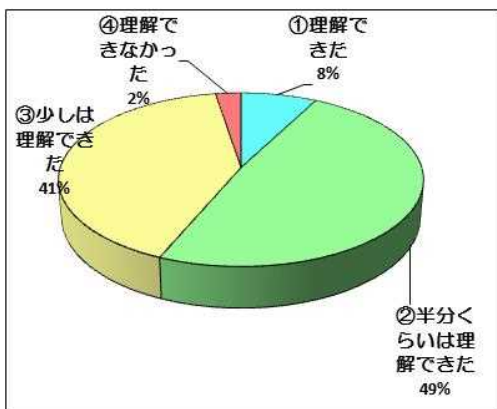
ほ場整備の概要



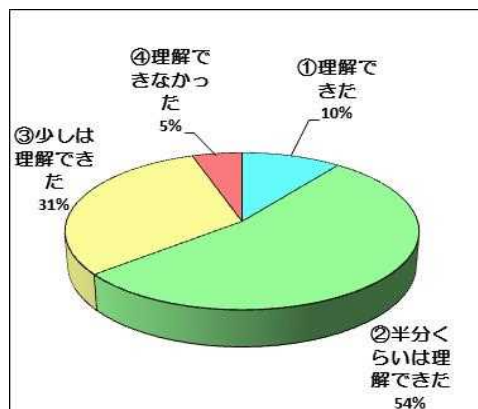
暗渠排水の計画（演習）

○第2回目（10月開催）：用排水路の計画、排水路の断面計算（演習）

- 理解度は、農業用水路の計画、排水路の断面計算（演習）とも6割でした。
- 主な感想は、「用水路と排水路の違いを知ることができた。」「前回、マンニングの式を利用する計算問題は全然分からなかったが、今回は授業で習った後だったので、理解しやすかった。」「計算で流量を求めるのは、無駄に大きな排水路を作って余計なお金を出さないようにするためだと分かった。」等でした。



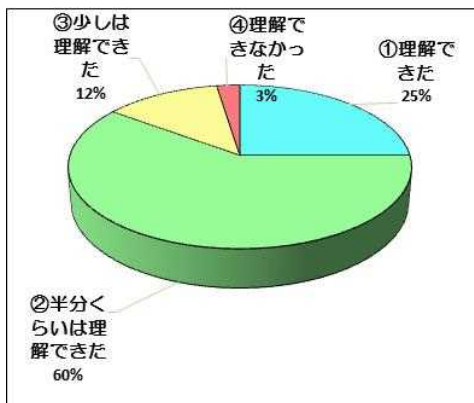
用排水路の計画



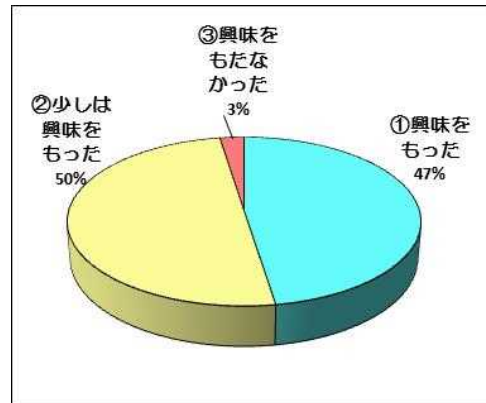
排水路の断面計算（演習）

○第3回目（12月開催）：熊本県農林水産部の業務概要、DVD上映、意見交換会

- ・熊本県農林部の業務概要は約9割の生徒が理解し、9割以上の生徒が農業土木の仕事に興味をもったとの回答でした。
- ・暗渠排水のDVDを見て、「昔の暗渠排水は竹を束にしていたので驚いた。」「富田甚平さんの発想力と信念がすごいと思った。」等の感想でした。
- ・若手先輩技術者との意見交換会は、「話が身近でとても参考になった。」「専門授業を特に頑張っていたと聞いたので、自分も頑張りたい。」「農業土木は農家を対象としていて「よくなった」という声が直接届く、やりがいを感じることができる仕事と聞いて、魅力的だと感じた。」「農業土木に対する考えや関心が深まった。」「公務員の仕事がどのようなものなのか、自分で進路を選ぶことの大切さについても知ることができたのでよかった。」等の感想でした。



熊本県の業務概要



農業土木への興味

高校からは、「学校の黒板で学んでいることが、実際にどう使われるか分かってよかった。」「今まで漠然と進路を考えていた生徒が、将来の目標に向けて取り組もうという姿勢が変わった。」「ぜひ次年度以降も継続して取り組んでほしい。」等の意見があり、「来年度、隣接する元三・木部地区のほ場整備が採択された時は、現地での実習も検討してほしい。」との要望がありました。

今後も高校と連携し、農業土木技術者の育成につながる活動を行っていくこととしています。

連絡

県央広域本部農林部農地整備課

計画調整班 後藤 健一郎、山形 慎也